

# G-10 わが国における一般国民の食生活に関する教養の展開過程 (第2報)

和洋女大家政 石川松太郎  
○市毛 弘子

1. 本研究は、近代社会において発刊された4種の生活総合事典(明治39年版, 昭和2年版, 昭和9年版, 昭和37年版)に採録された食生活にかかわる事項(のべ7000項目)を調査し, これをもとに, 明治初年以降, 今日にいたるまで, 一般国民, とりわけ主婦が, この面で身につけてきた, または身につけるように期待されてきた教養が, 量的ないし, 質的に, どのような変動過程をたどったかについて分析する。そして, このことにより, 将来の家庭生活, 家庭教育のありかたについて示唆をうることを目的とする。

2.3 すでに第1報(本学会, 昨年度の大会で発表)において, 上記7000項目中, 「食品」に関するものの調査結果について検討した。今回は, さらにすすみ, 料理形式, 調理技法, 調理機器等を調査・吟味した。すなわち4種の事典に盛りこまれた和風・中華風・洋風料理, また, 精進・懐石・会席・しっぽく, 南蛮・本膳料理など, さまざまな料理形式, さらに, これらの料理をなりたせ条件づけているところの種々の調理技法や調理機器を主要な研究対象とした。そして, 事項数やボリュームにさまざまな統計的操作を加えることにより, 量的な変動過程を, 各事項の記事内容を分析することにより質的な変動過程を明らかにしようとした結果, 食生活史, しいては家庭生活史のうえで, いくつかの重要な成果がえられたので, 本大会での発表を希望することとした。